



NO. 210

2010. 12. 15.

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会

(別名 大阪市手をつなぐ親の会)

<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 笹野井 庸夫

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

その人らしい暮らしを実現するために
～大阪市の施策と市育成会の取り組みについて

PART 4～

福島第一育成園の取り組みについて

園長 角森 佐岐子

福島第一育成園が開所して12年の歳月が経とうとしています。利用者の皆様も同じだけの年を重ね、ご家族の状況も変わってきています。変らないのは、ご本人たちの『家に帰って、家族と暮らしたい』という気持ちでしょうか。『施設を出たい』ではなく、『家に帰りたい』なのです。

今年4月、転勤してきたばかりの私に園長代理は、「自ら望んでここで暮らしている人はいません」と言いました。通所施設においても、ご本人の希望で通っているのかは疑問ですが、その言葉に頷きながらも、なんだか気持ちが重くなったものです。

残念ながら利用者の皆様の希望を叶えることはできないのが現実です。頼るべき家族がない方もいらっしゃると思います。

そもそも入所施設の役割とはなんなのでしょう。

- ・命を守るところ
- ・その人らしい、質の高い生活を提供するところ
- ・地域生活に戻るため必要な支援を確認するところ

もちろん、求められるものは一つではないと思いますが、大切なのはご本人の側に立ち必要な支援を組み立てていく事だと思います。誤解を恐れず言うなら、ご家族の意向ではなく、ご本人の気持ちに寄り添う支援者集団で在りたいと私は思っています。

利用者の皆様は驚くほどに従順で、あまり自己主張をされません。その姿は、今の暮らしに満足しているというよりは、どこか諦めに似たものに思えるのは私だけでしょうか。求めても与えられない、そもそも求める場さえ用意されていないのかもしれませんが。

なんだかマイナスイメージの事ばかり書いてしまいましたが、決して嘆いているばかりではありません。スタッフたちは、目前に迫っている体系移行に向けて新たな取り組みを考えています。

例えば、今は無断外出防止のため各フロアは施錠されていてスタッフの同行無しでは階移動もできません。それは安心な事ではありますが、自分で安全について考えることや、それぞれの生活パターンをもつことは難しくなります。定時に一階の作業室に降りるのも、週1回2階大食堂の自販機でジュースを買うのもいつもスタッフがついてくる。自分に置き換えると結構鬱陶しくはありませんか。園内ならある程度自由に動ける力を持っている人の生活するフロアを設定し、地域生活も視野に入れた支援のあり方を探る試みを考えています。

他には、生活にメリハリをつけるため日中は生活フロア以外の場所で活動を行い、作業だけではなく生活スキルの習得も取り入れる。1週間、1ヶ月先が意識できるような行事の設定で生活のリズムを整える。本人活動グループをたちあげ、自主的な活動に取り組む等々。

家族との暮らし以外にも自分の居場所はある。自分らしい充実した生活を見つけることで、この先々も家族と良い関係が続けられる事をぜひ知っていただきたいと思います。

そのためにも、これまでの施設支援にとらわれずに福島第二育成園と協力してサービス充実させ、地域支援を意識した事業展開を図ってまいりますので、皆様のご理解ご支援をよろしく願います。

第59回全日本手をつなぐ育成会全国大会 分科会報告 ～第2弾～

【第2分科会】

活動・働く：日中活動支援と福祉的就労の支援

【討議内容】充実した地域生活の社会資源である介